

東北学院大学学長挨拶・組織図・ 教育目的・課程の目的	P1	経済学研究科 経済学専攻	P11・P12	工学研究科 環境建設工学専攻	P23・P24
目次・ 社会人の受入れ	P2	経営学研究科 経営学専攻	P13・P14	人間情報学研究科 人間情報学専攻	P25・P26
教学上の3つの方針	P3・P4	法学研究科 法学専攻	P15・P16	最近の主な進路(就職)・修業年限及び 最長在学年限・課程の修了要件	P27
文学研究科 英語英文学専攻	P5・P6	工学研究科 機械工学専攻	P17・P18	授業(昼夜開講制)・学位	P28
文学研究科 ヨーロッパ文化史専攻	P7・P8	工学研究科 電気工学専攻	P19・P20	教育職員免許状の取得・ 学生支援	P29
文学研究科 アジア文化史専攻	P9・P10	工学研究科 電子工学専攻	P21・P22	奨学金制度・沿革	P30
				キャンパス所在地MAP	

社会人の受入れ

すべての研究科・専攻で特別選考による社会人の受け入れを積極的に行っております。一人一人の社会人の勤務形態などを考慮し、授業運営も昼夜開講や長期履修制度(28・29ページ参照)を利用することにより弾力的に対応しています(14ページ:経営学専攻時間割参照)。

高度化、多様化、複雑化が進行する社会の中で、少人数によるリカレント教育、リフレッシュ教育の機会を提供することにより、生涯教育による教養や知識の深化、拡充を実現することや学位取得によるキャリアアップを実現することができます。



卒業生からのメッセージ

税理士として職場に貢献したい

平成28年度
博士課程前期課程修了

えんどう たかひろ
遠藤 貴博 さん



私が勤務する税理士事務所の職員は人柄も良く、職務に真摯に向き合い、そして活発に意見交換を行うなど素晴らしい職場環境にあります。これは所長をはじめ、先輩職員が長い時間をかけて作り上げたものです。そのような環境で働きながら、税理士になることを目標に税理士試験を受験し、当初から所長や職員の方々には応援していただきました。しかし、10年以上にわたる受験への取り組みが、いつしか職員の負担を大きくし、職場全体を不安にさせていることに気がきました。そこで、職場環境を安定させるため、なるべく早く税理士資格を取得しようと東北学院大学の大学院へ進学を決意しました。

私の学んだ経営学専攻は、土樋キャンパスにあるため利便性がよく、多くの授業は平日の夜間や土曜日に行われるなど、社会人の事情にも配慮いただきました。

1年目の授業は、土曜日に税務会計、租税法など租税に関する講義・演習を中心に行われ、平日は経営学全般に関わる講義が行われます。講義内容は、課題の文献収集・要約・発表をし、その上で議論しながら講義が進みます。

土曜日の授業を振り返ると、租税法特講Ⅰ・Ⅱでは諸外国の租税の歴史を中心に学びました。租税法特講Ⅲでは財務省職員を講師に招き、日本の税制に関する国際比較や、将来の日本を見据えた税制の在り方について多角的に講義していただきました。また、特別講義では会社経営者を招き、培った経験を失敗談も交えながら講義していただきました。これらの授業により過去から現在、そして未来に渡り体系化されていく租税法の存在がより身近になったと実感しました。

2年目の授業は土曜日のみで、研究論文の指導を受けます。自らテーマを選び章立てし、大学と大学院の図書館で文献の収集や研究を何度も重ねていきます。他大学からも文献を取り寄せることができるため納得のいくまで修士論文の執筆に集中できました。高橋志朗先生にはたくさんのご指導をいただき、ゼミ生同士で議論を繰り返しながら修士論文を作り上げ、本当にあっという間の1年間でした。

大学院生は一般企業在籍者、税理士事務所勤務の社会人、主婦、学部卒業者などさまざまな方たちがいて、年齢層も20~40代と幅広いです。自分にはない価値観を持った人たちと出会い、先生方も一緒になって休憩時間や昼食、授業、懇親会などを過ごすことができ充実した2年間でした。

現在、私は税理士として職場に貢献できることに喜びを感じています。大学院で学んだ幅広い知識、垣根を越えた人とのつながりを大事にしながら税理士として歩みを進めていきます。

